

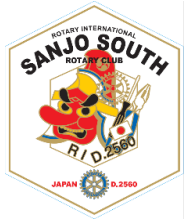


三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club

2025-2026
クラブテーマ

友に学び、ともに歩み、共に成長



2026. 4. 27

ライラ報告

No.2559

No.31



会長挨拶
三条南ロータリークラブ
会長

木村 謙

今週は、ライラ研修の報告を三条信用金庫のお二人から行っていただきます。

また、先月の理事会で承認をいただきました会員細則の変更点を配布させていただきます。本日は、採決はとりませんが、読んでいただき5月に承認を得たいと思います。

吉田、三条北、そして5月9日に行われる三条東と、各ロータリークラブの周年行事が続いております。

当クラブからも多くの方々にご参加いただき、たいへんありがとうございます。

さて、先週の土曜日、4月25日には「クラブサポートミーティング」が開催されました。

今年度が初開催となる会議で、今年度および来年度の会長が出席し、主に会員増強を中心とした話し合いが行われました。会議はリアル会場とZoomの同時開催でしたが、運営面で少し不慣れな部分も見受けられ、参加する側としては少々ストレスを感じる場面もございました。

議題としては、マイロータリーの活用についてのほか、地区の長年の懸案事項である「ガバナー事務所の固定化」、そして「分区の名称変更および再編」についての提案がありました。

まず「ガバナー事務所の固定化」についてです。

以前はガバナー事務所、ガバナーエレクト事務所、地区事務所と3つあったものを、経費節減や事務員の継続雇用、ICT環境の整備を理由に、近年は一体化して運営されています。

本来のルールとしては「一体化しても、別々でも、どちらでもよい」といった雰囲気だったようですが、今回「地区としてこのまま固定化を進める」という提案が出されました。

これに対し、会場からは「ZoomなどのIT機器を使いこなせないガバナーが就任した場合はどうなるのか」といった意見や、「事務所とガバナーが物理的に離れることでコミュニケーションが希薄になり、地区運営が消極的になってしまうのではないか」といった懸念が出されました。さらに、事務所統合という本来のテーマから少し外れた議論も活発に交わされる状態でした。運営幹事としては当日の決定を促したかったようですが、

やはりその場での判断は難しく、結論は次回以降へと持ち越しになりました。

続いて、「分区再編」の提案についてです。

現状「分区」という名称を使用しているのは、日本では我々2560地区を含め2つほどしかなく、他の地区では「グループ」という単位で呼ばれているそうです。

今後は「1グループを5から8クラブ程度」に再編し、ガバナー補佐が年4回ほど訪問しやすい体制にしていこうと、そして3年後くらいを目途に変更できるようにしていきたいという説明がありました。

地区の今後の方向性を決めるうえで、様々な意見が交わされる場となりました。

私たちのクラブ運営にも直結する事柄が含まれておりますので、こうした地区の動向も共有させていただきながら、引き続き皆で協力してより良いクラブづくりを進めてまいりたいと思います。

◆本日の出席：39名中30名

◆先週までの通算出席率：90.41%

◆本日のお客様：ライラ研修生 三条信用金庫 石高龍希様、小林里妃様

◆先週までのメイクアップ：4/4 財団米山高額寄付者感謝の集い(イタリア軒)木村謙さん▶4/7 市内7クラブ現次年度会長幹事会(松木屋)木村謙さん、加藤一芳さん、吉沢栄一さん、布施純也さん▶4/8 三条RCへ野崎正明さん▶4/9 三条東RCへ松崎孝史さん、佐々木常行さん、木村雅也さん、太田義人さん▶4/11 吉田RC40周年記念式典(燕三条ワシントンホテル)木村謙さん、加藤一芳さん、田中康之さん、野崎正明さん、星野健司さん▶4/13 三条南RC(職場例会欠席者の記帳)大溪秀夫さん、榎本剛彦さん、渡辺和宏さん、江花正高さん▶4/15 三条RCへ荒澤威彦さん▶4/16 三条東RCへ太田義人さん、佐々木常行さん、長谷川直哉さん▶4/20 三条南(三条北欠席の記帳)大溪秀夫さん、榎本剛彦さん、坪井康紀さん、平松修之さん▶4/20 クラブ幹部会(次年度理事・役員会)(松木屋)吉沢栄一さん、長谷川直哉さん、熊倉高志さん、銅冶康之さん、木村謙さん、野崎正明さん、中村靖さん、関博市さん、江花正高さん、石山昌宏さん、加藤さん▶4/21 三条北RCへ佐々木常行さん、榎本剛彦さん、田代徳太郎さん、坪井康紀さん、峰島由紀子さん▶4/25 クラブサポートミーティング(ZOOM)木村謙さん、吉沢栄一さん▶4/25 米山奨学生・加藤一芳さん(ANA) 芳村新介 藤田寛嗣さん、石山昌宏さん

◆幹事報告：加藤一芳幹事

▶2026年4月のRレート1ドル160円(3月は156円)

よいことの
ために
手を取りあおう

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツツォ(イタリア)
第2560地区ガバナー 室賀 信宏(白根)
第4分区ガバナー補佐 青柳 修次(燕)
会長 木村 謙
幹事 加藤 一芳
S A A 関 博市

事務局
〒955-8666 三条市旭町2-5-10
三条信用金庫本店内
TEL 0256-35-3477
FAX 0256-32-7095
E-mail info@sanjo-minami.jp
URL https://www.sanjo-minami.jp

ニコニコボックス

4/27 18,000円 今年度累計 521,000円

木村会長「本日はライラの報告にさんしんの石高様、小林様、ありがとうございます」

加藤幹事「ライラ報告の石高さん、小林さん、再会うれしく思います」

吉沢エレクト、野崎さん「本日はライラ報告楽しみにしております。よろしくお願ひいたします」

坂井さん、田代さん、銅冶さん、平松さん、熊倉さん、船久保さん、渡辺(俊)さん、田村さん、関さん、坪井さん、廣岡さん、藤田さん、木村(雅)さん「BOXに協力します」
石山さん「BOXにご協力ありがとうございました」

ライラ報告

2026年3月4～5日 於：あてま高原リゾートベルナティオ (ホスト：小千谷RC)



三條信用金庫見附支店の石高^{いしだかりゅうき}龍希と申します。

この度は、ライラ研修という大変貴重な機会に参加させていただき、誠にありがとうございました。十日町の豊かな自然と雪の中で、異なる分野で活躍されている同世代の皆様と交流しながら学ぶことができ、非常に刺激的で実りのある2日間となりました。本研修を通じて得た経験や気づきは、今後の自分自身の成長に大きくつながるものと感じております。このような機会をご提供くださいました三條南ロータリークラブの皆様へ、深く御礼申し上げます。また、ご多忙の中、温かくご指導・ご引率いただきました加藤一芳様にも心より感謝申し上げます。道中におきましては、昼食をとる場所を探すのに少々苦労いたしました。ようやく見つけたお蕎麦屋でいただいた、からしで食べるお蕎麦が非常に印象的で、美味しく心に残っております。このような何気ない時間も含め、大変貴重な経験となりました。改めて、誠にありがとうございました。

それでは「これからの雪との関わり方を学ぶ」というテーマをもとに行われた今回の研修を通して学んだことをご報告させていただきます。

研修1日目は、元フリースタイルスキー・モーグル日本代表である上村愛子様トークショーが行われました。お話の中で特に印象に残ったのは、「結果を急ぐのではなく、目の前の一つひとつに丁寧に向き合うことが大切である」という点です。競技生活の中では、努力してもすぐに成果として表れない時期が続くこともあったとのことですが、そのような状況でも自分自身を信じて取り組み続けた経験が、最終的な成果につながったというお話に強く心を打たれました。また、常に高い目標を持ちながらも、日々の小さな積み重ねを大切にされていたという点から、目標と現実のギャップに向き合い続けることの重要性を学びました。大きな目標を達成するためには、特別なことをするのではなく、当たり前のことを当たり前に続けることが何よりも大切であると感じました。さらに、挑戦を続ける背景には、周囲の支えがあるというお話から、個人の努力だけでなく、人とのつながりの中で成長していくことの大切さを学びました。目標達成は一人で完結するものではなく、支えてくれる存在があってこそ実現に近づくのだと感じました。

研修2日目は、株式会社 Snow Biz 代表取締役の伊藤親臣様より「雪の力で未来をひらく」というテーマでご講演をいただきました。講演を通して、これまで日常の中で当たり前存在していた雪に対する見方が大きく変わりました。特に印象に残ったのは、雪を活用した「雪室」の取り組みです。自然の力を活かすことでエネルギー消費を抑えつつ、食品の品質向上にもつながる点に、大きな可能性を感じました。また、雪は食品の保存だけでなく、医薬品の保管やデータセンターの冷却など、さまざまな分野で活用できる可能性があるというお話から、地域資源を生かし方次第で新たな産業や価値を生み出すことができると感じました。雪国であるという環境は一見不利に思われがちですが、その特性を強みとして捉えることで、地域の発展につなげることができるのだと実感しました。さらに、雪国における事故や災害についても、日常の中でちょっとした工夫や意識の変化によってリスクを軽減できるというお話がありました。安全対策は特別なことではなく、身近な改善の積み重ねによって実現できるものであると感じ、日々の生活の中での意識の大切さを改めて認識しました。

加えて、本研修の中で行われたグループディスカッションも、非常に有意義な時間であったと感じております。講演内容について各自が感じたことや考えを持ち寄り、それを言語化し共有する過程において、自分一人では気づくことのできなかつた新たな視点や価値観に触れることができました。この経験を通して、単に知識を得るだけでなく、他者との対話を通じて理解を深めていくことの重要性を改めて認識いたしました。

以上を踏まえ、本研修のまとめといたしまして、物事を一つの視点だけで判断するのではなく、多角的に捉えることの重要性を学びました。また、目標に向かって努力する際には、結果だけにとらわれるのではなく、その過程にどれだけ真摯に向き合えるかが重要であると実感しました。今後は、目標を明確に持ちながら、日々の積み重ねを大切にしていきたいと考えております。そして、周囲への感謝の気持ちを忘れることなく、人とのつながりを大切にしながら、自身の成長へとつなげていきたいと思ひます。



三條信用金庫 島田支店の^{こばやしりこ}小林里妃と申します。

この度は、ライラ研修という大変貴重な研修会に参加させていただき、誠にありがとうございました。2日間にわたり、十日町という自然豊かな場所で、様々な業種で活躍されている同年代の方々と共に学ぶことができ、大変有意義な時間となりました。

このような素敵な機会を与えてくださいました三條南ロータリークラブの皆様、そしてご多忙の中、温かく迎え入れてくださり、ご指導・ご引率くださいました加藤一芳様に、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

それでは、「これからの『雪』との関わり方を学ぶ」というテーマをもとに行われた今回の研修を通じて学んだことをご報告させていただきます。

研修 1 日目は、元フリースタイルスキー・モーグル日本代表の上村愛子様トークショーを拝聴しました。お話の中で、目標に向かって努力し続けることの大切さや、心の在り方について多くの学びを得ることができました。特に印象的だったのは、結果だけではなく、その過程そのものに価値を見いだす姿勢です。オリンピックで思うような結果が出なかった経験も、自身の成長に繋げる前向きさは、努力の意味を考える上でとても勉強になりました。また、努力は一人では成り立たず、応援して下さる人々の存在が大きな支えになっているというお話も、とても心に残りました。自分の意志だけでなく、支えて下さる人々への感謝や期待に応えたいという思いが、努力を続ける原動力になると感じました。

さらに、プレッシャーの中でも自分らしさを保ち、成功や失敗の全てを受け入れて次に生かす誠実さや謙虚さも、多くの学びとなりました。今後は、結果にとらわれず一つ一つの努力に意味を見だし、周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに行動していきたいと思います。上村様のお話は、自分自身の考え方を見つめ直すきっかけとなり、これからの行動に大きな影響を与えて下さる大変貴重な学びとなりました。

研修 2 日目は、株式会社 Snow Biz 代表取締役であり、スノーエンジニアの伊藤親臣様より、「雪の力で未来をひらく」というテーマでご講演いただき、雪国ならではの資源である雪の可能性について学びました。特に印象に残った内容は、雪を活用した「雪室」の取り組みです。雪を単なる厄介な自然現象として捉えるのではなく、価値ある資源として活用することの重要性を強く実感しました。雪室は、冬に積もった雪の冷気を利用することで電力使用を抑え、環境負荷の軽減に繋がる点で、現代のSDGs の考え方にも合致した優れた仕組みです。また、一定の低温環境も保つことで食品の鮮度を維持できるだけでなく、甘みや旨味が増すなど、品質向上にも寄与する点が非常に印象的でした。さらに、雪の活用は食品保存にとどまらず、医療品の保管やデータセンターの冷却など、多様な分野への発展が期待されていることを知り、雪国ならではの強みを改めて認識しました。これまで雪に対しては負担の大きい存在という印象を持っていましたが、視点を変えることで地域資源として有効活用できるということに気づくことができました。

また、雪国での生活における安全面についても学びました。除雪作業中の事故は身近な問題ですが、手かがり棒付きのはしごを設置するなどの工夫によって危険を軽減できることを知り、こうした日常の中の小さな改善が、人々の安全を守ることに繋がっていると実感しました。

伊藤様の講演を拝聴し、昔から受け継がれてきた知恵と現代技術を組み合わせることの重要性を学ぶことができました。今後は、雪室のように視点を変えることで生まれる新たな価値を大切にしながら、自然と共存する暮らしや社会の在り方についての考えを深めていきたいです。そして、自分にできることから一つずつ取り組み、より良い社会の実現に貢献していきたいです。

今回の 2 日間の研修を通じて、努力の過程を大切にする姿勢や、雪という資源の新たな可能性について学ぶことができました。

また、グループディスカッションでは、異なる立場や考え方に触れることで、自分一人では気づくことのできなかった視点を獲得ことができ、大変有意義な時間となりました。相手の意見に耳を傾け、尊重しながら意見を

まとめていくことの重要性を改めて実感するとともに、協力することでより良い結論に導けることを学びました。この経験から得た学びを大切に、今後は周囲への感謝の気持ちを忘れず、多様な視点を取り入れながら主体的に行動していきたいです。

ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA)

ロータリークラブまたは地区が実施するプログラムで、若い人たちが新しい友人をつくり、楽しみながらリーダーシップのスキルを磨くものです。

RYLA でできること

- 地元で活躍する人や豊かな経験をもつ人たちと一緒に：
- コミュニケーションや問題解決のスキルを磨く
- 学校や地元地域で活躍できるリーダーとなる方法を発見する
- 地元を動かすリーダーによる指導、意欲を高めるような講演、仲間との交流を通じた学び
- 自分の可能性を発見し、行動へとつなげる
- 楽しみながら、生涯続く友情を培う

RYLA の内容

RYLA のイベントは、14~30 歳までを対象として、地元ロータリークラブや地区によって開催されます。地元のニーズに応じて、1 日のセミナーから数日間の合宿まで、さまざまな形式が取られます。さまざまなトピックのプレゼンテーション、アクティビティ、ワークショップなどを含むイベントです。



5月のお祝い

◆ 会員誕生

野崎正明さん
長谷川直哉さん

◆ 配偶者誕生

永桶俊一さんご夫人
船久保孝志さんご夫人
木村雅也さんご夫人
坪井康紀さんご夫人

◆ 結婚記念

船久保孝志さんご夫妻
熊倉高志さんご夫妻
榎本剛彦さんご夫妻
坂井範夫さんご夫妻
草野亘輔さんご夫妻

** おめでとうございます **



ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を实践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。



4月11日 吉田RC 創立40周年記念式典
祝賀会(於:燕三条ワシントンホテル)



4月18日 三条北RC 創立40周年記念式典祝賀会
(於:ジオワールドVIP)



5月9日 三条東RC 創立20周年記念式典祝賀会
(於:ジオワールドVIP)

